

# 「木造住宅耐震診断の独り言」

## 木造在来工法住宅の耐震補強について

耐震補強を行うベストのタイミングとは

木造住宅の耐震補強を行うベストのタイミングとは顧客が建物のリフォームを考えている時なのです。外壁の仕上げをサイディングに替える場合は既存の仕上げを撤去するので、そのタイミングをとらえて筋違と金物を取り付け、その上から構造用の合板と、はっ水性防水紙を貼りサイディング仕上げを行う。この場合だと筋違、金物、合板、隅柱浮き上がり防止金物程度の材料と取り付け費の追加ぐらいで安い費用で補強ができてしまいます。

又、室内の壁クロスや天井、床を張り替えるのならそのタイミングを利用して、内壁の下地ボードを外し、筋違と金物を取り付け、その上から既存ボードと同じ板厚の構造用の合板を貼り、クロス仕上げを行う。この場合、構造用合板を貼るため天井や床の一部を外すので、室内のリフォームはベストのタイミングとなります。

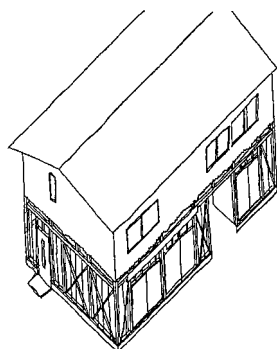
### 1階のみを補強する場合

2階建ての木造住宅は地震では1階のみが壊れ、2階はそのままの形で残る場合が多く、実際には1階で亡くなる方が多いことを考えますと、顧客の予算によっては1階だけを補強するのも良いかと思います。

顧客によっては2階も心配される方がおられるので、事前に充分打ち合わせをし、了解をとることが大切となります。

耐震補強工事を外側からする場合と内側からする場合の長所と短所

	長 所	短 所
外から工事	イ) 生活環境がそのまま維持可能 ロ) 工事作業員が屋内を出入りしない ハ) 引越しのための余分の出費が無い	イ) 外廻りに敷地の余裕が必要 ロ) 風や雨水の進入がある ハ) 庇撤去のための余分の出費がある
内から工事	イ) 外廻りに敷地の余裕が不要 ロ) 風や雨水の進入が無い ハ) 庇撤去のための余分の出費が無い	イ) 生活環境がそのまま維持不可能 ロ) 工事作業員が屋内を出入りする ハ) 引越しのための余分の出費



1階の外壁のみを補強する場合



船橋支部 吉政